

北タイ班

タイ北部におけるモン族のブタ飼育

中井信介（総合研究大学院大学 先導科学研究科）

キーワード：タイ北部、モン族、ブタ飼育、管理技術、儀礼

Pig breeding of a Hmong (Miao) in northern Thailand

Shinsuke NAKAI (The Graduate University for Advanced Studies)

Keywords: Northern Thailand, Hmong, Miao, Pig breeding, Management skill, Ritual

要旨

本研究ではタイ北部におけるモン族のブタ飼育について、飼育頭数、飼育技術、生産と利用の詳細について明らかにすることを目的とした。本研究の結果から次の3点が明らかとなった。飼育頭数については各戸別の飼育頭数が明らかとなり、調査村全体において276頭が飼育されていた。また飼育技術については飼料の詳細が明らかとなった。生産と利用の詳細については、調査村において2005年1年間に113頭が儀礼および慶事に消費され、他村から19頭が購入され、他村へ10頭が販売されていることが明らかとなり、3年程度で村内のブタは消費され循環していることが推定された。調査村において2000年を境に自家において繁殖飼育を行わなくなり、利用の際には他村から購入するように変化した事例がみられた。このような本研究の結果について、3つ目の結果の背景には、生業の中心である農耕の変化の影響があり、タイ北部のモン族におけるブタ飼育は、依然として多くの村人が生産と利用に関わりをもち生業として重要であるが、自家での繁殖飼育や飼育技術という生産の面において変化してきている。

1. はじめに

1) 目的と方法

タイ北部におけるモン族の民族誌としては、Geddes[1976]、Cooper[1984]、Tapp[1989]の3つが知られているが、いずれにおいてもブタ飼育についての詳細な記述はなく、1960年代に文化生態学的研究を行なったGeddes[1976]にわずかにみられる。このGeddes[1976]においても焼畑農耕についての詳細な記述があるいっぽうで、ブタ飼育についてはわずかに3行「ブタは柵に囲まれていることもあるが、通常は自由に村の中を歩き回り食べ物をあさっている。夜に茹でたトウモロコシがエサとして与えられている。」と記述があるのみとなっている[Geddes1976:195-196]。このように1960年代に研究を行なったGeddes[1976]以降、現在まで40年近くが経つがタイ北部のモン族のブタ飼育に関する研究は行なわれていない。そこで本研究ではタイ北部のモン族のブタ飼育について生態人類学的に明らかにすることを目的とし、具体的にはブタの飼育頭数、飼育技術、生産と利用の詳細について明らかにする。研究にあたって現地調査を観察および聞き取りにより2005年5・6月、8～10月および2006年2～3・4月にのべ6ヶ月間行った。

2) 調査地の概要

図1は本研究の調査地を示す。調査はタイ北部の東側、ラオスと国境を接するナーン県のHY村（写真1）を対象に行った。調査村はナーン川の支流であるサー川の最上流域の標高約700mに位置し、周囲を約1000mの

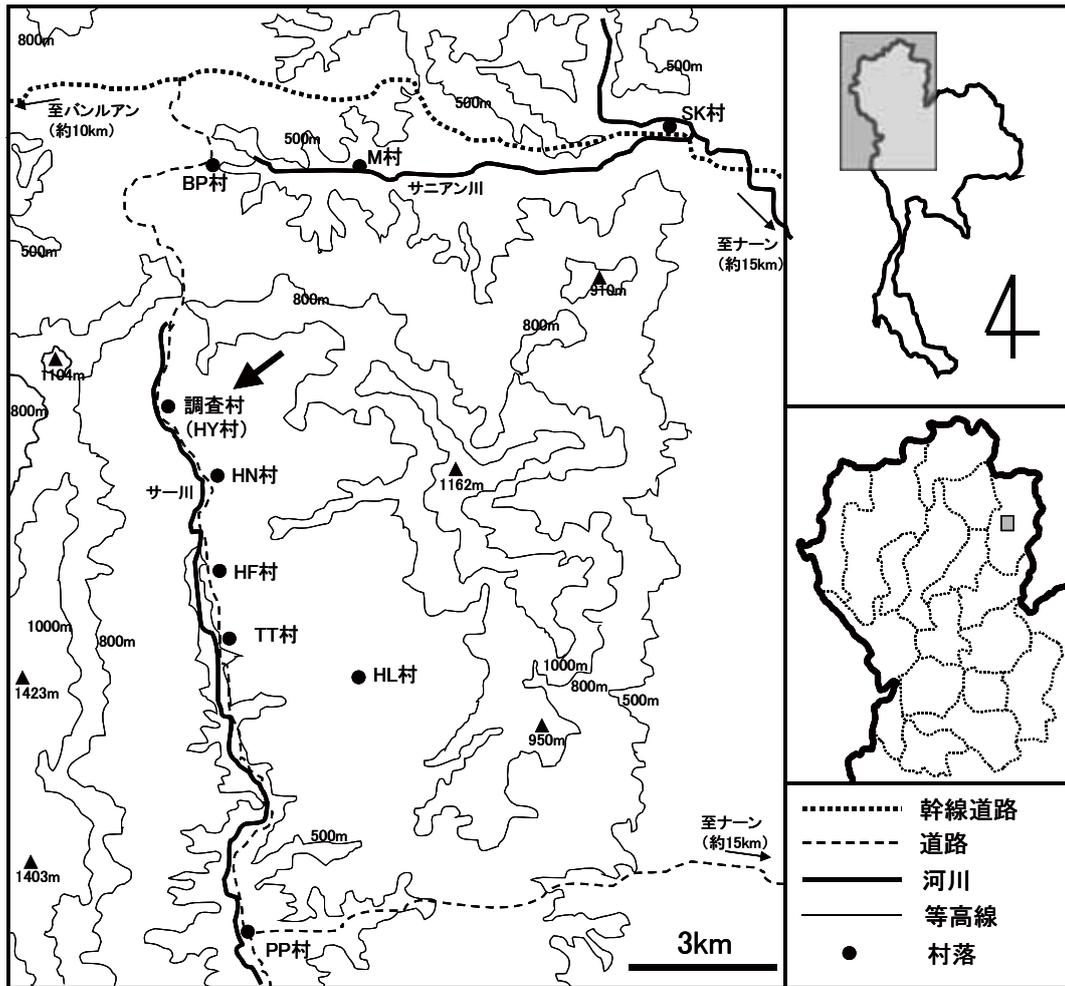


図1 本研究の調査地

出所:タイ国王立調査局(Royal Thai Survey Department, Bangkok, Thailand.)による地図(1:250000、1978年)を元に筆者作成。

山に囲まれている。調査村は1980年に形成され、2005年の戸数は80、人口は632人を示す(図2)。人口は1980年から2005年までの25年間で約3.5倍に増加している。

モン族は1000m以上の高地を好んで住み、焼畑農耕を行いながら、中国南部からしだいに南下し、タイ北部へは19世紀後半に到達したとされる[Geddes1976:35-44]。1970年代頃まではケシ栽培を盛んに行なっていたが、タイ国がケシ栽培禁止政策を強化するにしたがい、ケシの栽培をやめて、キャベツやトウモロコシといった新たな換金用作物を栽培するようになってきている[Tungittiplakorn1998:241-245]。調査村においても、焼畑は依然として行なわれているが、一部で水田や常畑がみられるようになり、2005年には陸稲、トウモロコシ(換金用と自給用)、ショウガ、水稲、ライチなどが栽培されている。



写真1 調査村周辺の様子

2. ブタの生産

1) 調査村におけるブタの飼育数

表1は調査村で飼育されている家畜飼育数を示す。ブタについては276頭が64戸(81.0%)において飼育

表1 調査村における家畜飼育数

家畜名	飼育数	飼育戸数	1戸あたり平均飼育数
ブタ	276	64(81.0)	3.5
ニワトリ	1129	76(96.2)	14.3
牛	103	16(20.3)	1.3

注)カッコ内は村内における割合(%)を示している。

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年3月)

されている(79戸について2006年3月調べ)。また、1戸あたり平均3.5頭が飼育されている。

図3は調査村の79戸における各戸別にみたブタ飼育数を示す。調査村においては各戸あたり0から12頭の幅で飼育が行なわれている。図からは79戸のそれぞれの飼育数はわずかな差でゆるやかに推移して分布していることがわかる。1戸あたり3頭を飼育している家が最も多く17戸ある。また調査村における1戸あたりの平均飼育頭数である3.5頭を超える4頭以上を飼育している家は33戸ある。また1~3頭を飼育している家は31戸、ブタを飼育していない家は15戸ある。

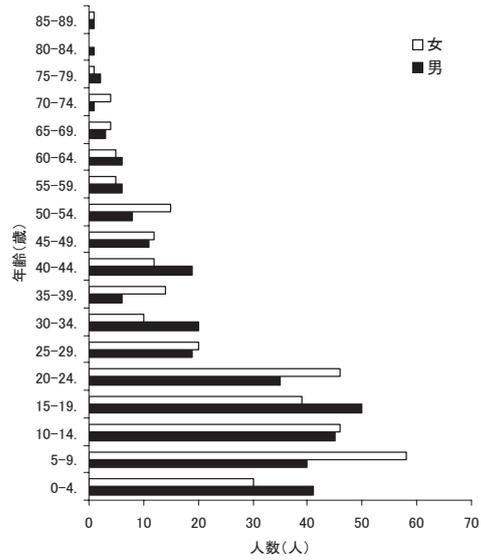


図2 村における年齢別人口(2005年)

出所:筆者の聞き取り調査(2005年10月)

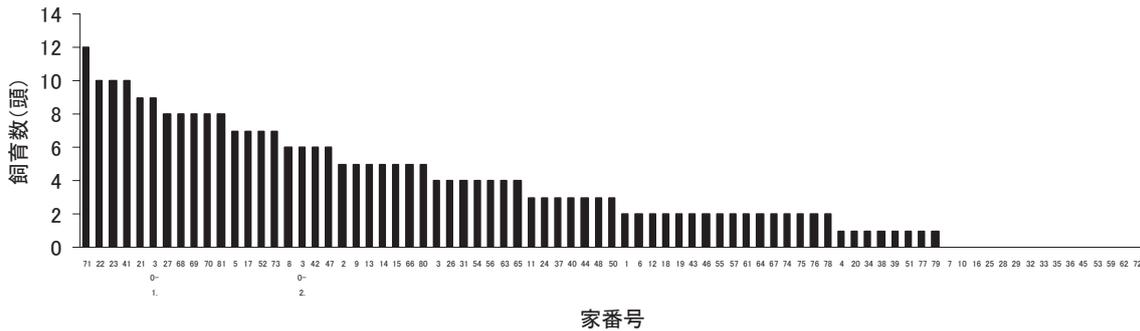


図3 各戸別にみたブタ飼育数

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年3月)

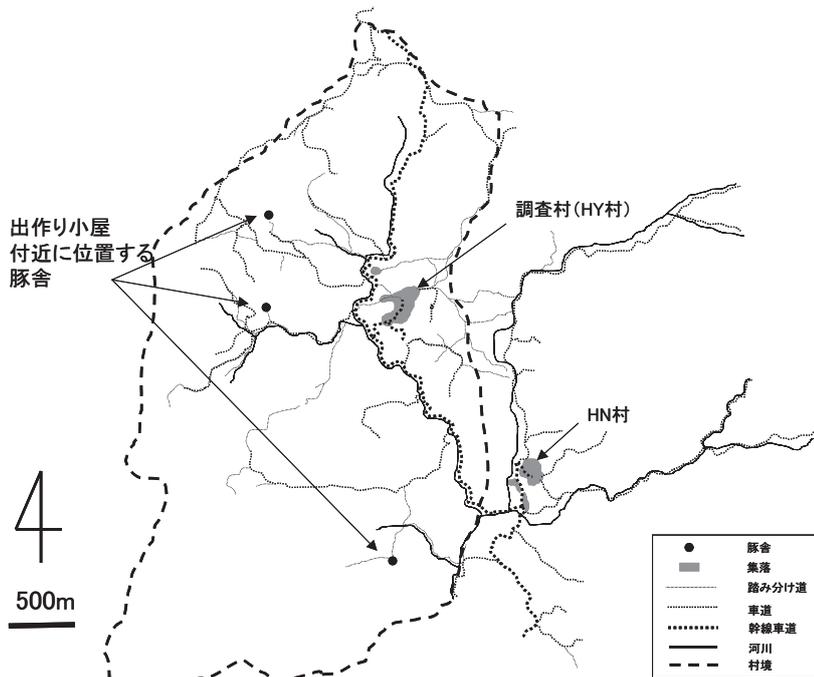


図4 出作り小屋付近に位置する豚舎

出所:筆者の現地調査(2006年4月)。GPSをもちいた簡易測量による。



写真2 調査村集落内における豚舎



写真3 調査村集落内豚舎におけるブタの母子



写真4 集落外の畑地出作り小屋近くの豚舎



写真5 集落外の畑地出作り小屋近くの豚舎におけるブタの母子

2] 飼育形態

(1) 集落内飼育と畑地飼育

調査村においてブタ飼育を行なう64戸のうち、61戸については集落内でブタ飼育を行なっている(写真2、写真3)。いっぽう3戸については集落外の畑の出作り小屋付近で飼育を行なっている(図4、写真4、写真5、注1)。図4からは、集落の西側へ約1kmのところでは2戸が、南側へ約2kmのところでは1戸がブタ飼育を行なっていることがわかる。

(2) 飼育されるブタの種類

調査村において飼育されるブタはいずれも耳が小さくピンと立っており黒毛のものであり、黒澤[2005:65-84]の指摘する小耳種系のブタであると考えられる(写真3、注2)。例外として畑の出作り小屋付近で飼育を行なう1戸において1頭のみイノシシの容姿をした子ブタを確認している(写真5)。

(3) 豚舎の構造

集落内においては屋根付きの豚舎内における飼育が広くみられ(写真2)、一部で2m四方程度の囲いの中で飼育されている。そして、畑の出作り小屋付近で飼育を行なっている3戸については5m四方以上の広い囲いの中で飼育されている。

豚舎の多くは木材で作られ、一部に竹材も利用されている。壁板は比較的隙間が開いており、子ブタは出入り自由となっている場合がある。飼料容器は自然木の丸太をくりぬいたものや車のゴムタイヤを半分に切ったものが使用されている(写真6、写真7)。

(4) ブタの舎飼と放牧



写真6 丸木をくりぬいて作られた飼料容器。
キャッサバとジャックフルーツの皮が
与えられている（集落内）。



写真7 車のゴムタイヤを半分に切った容器。
刻んだバナナ葉・茎に米ぬか加えた
飼料が与えられている（集落内）。

集落内で飼育されるブタの場合、豚舎の隙間から出入り可能な子ブタをのぞいて、親ブタは通常一日中豚舎に
いる。時折、親ブタは村人が一日中家にいる雨の日などに、家の庭において放牧され泥あびを行なう。その際
にはブタの後ろ足にヒモをつけて、もう片方は適当な木に結びつけられている場合が多い。いっぽう畑の作り小
屋近付近で飼育されているブタの場合、5m四方程度の柵で囲まれた範囲であるが、自由に動き回ることができ
るため、泥あびは常に行なうことができる。

(5) ブタの飼料

表2は集落内で飼育されるブタの飼料について3戸の事例を示す。集落内で飼育されるブタにはバナナの葉・
茎、バナナの皮、クズの葉、ヒユの葉、キャッサバの葉、キャッサバの皮、換金用トウモロコシ、自給用トウモ
ロコシ、キャベツ、ウリの皮、ジャックフルーツの皮、スイカの皮、パパイヤの皮、食事後の余米、米炊飯時の
余汁、米ぬか、が与えられていた。

表2からは調査集落内において、バナナの葉・茎が常に主として与えられ、ついで米ぬかやトウモロコシも
頻繁に与えられていることがわかる。またヒユの葉は2005年6月に、ウリの皮は2005年8月～10月に、キャ
ベツは2006年2～4月に、と与えられる時期が限られる飼料がある。

表2 調査集落内において与えられたブタの飼料(2005年～2006年)

家番号	1												2												5												飼料の特徴		
	6	8	9	10	2	3	4	6	8	9	10	2	3	4	6	8	9	10	2	3	4	6	8	9	10	2	3	4	半野生	農耕	村人								
観察回数	10	4	5	12	8	9	15	10	4	5	16	5	9	14	7	0	3	6	6	9	12																		
バナナの葉・茎				2	1	2	10	8	4	5	14	5	9	14	5	3	6	3	5	12	○																		
バナナの皮		1	3																			○		○															
クズの葉	1			1					1	3	2	2						3				○																	
ヒユの葉	2							3							4							○																	
キャッサバの葉						4																		○															
キャッサバの皮								1				2	2									○		○															
自給用トウモロコシ		1																				○																	
換金用トウモロコシ				2							7								2	9	1	○																	
キャベツ					2	2																○		○															
ウリ皮			4	3							6											○		○															
ジャックフルーツの皮	1												2									○		○															
スイカの皮	1					1		4					1							1		○		○															
パパイヤの皮												2	3									○		○															
食事後の余米	7	3	5	10	6	8	6	1														○		○															
米炊飯時の余汁						1	1					3	5									○		○															
米ぬか	1	1	9	2	1	8				4	5	3	7				1	4	4	3	11	○																	

注) 観察回数はその月において筆者が観察した回数を示している。

出所: 筆者の観察による(2005年6月、2005年8～10月、2006年2～4月)

表2に示したようにブタの飼料はバナナの葉・茎、バナナの皮、クズの葉、ヒユの葉といった半野生産物と、その他の農耕産物に分類することが出来る。バナナの葉・茎については焼畑地に半野生の状態に豊富にある中から、葉や茎の一部を毎日少しずつ利用するため、しばらくすると更新され、持続的に利用されている。また村人の利用屑とそうでないものに分類すると、村人が焼畑地からバナナの皮、クズの葉、ヒユの葉をブタの飼料のためだけに採ってきていること、また自給用や換金用のトウモロコシがそのまま与えられていることがわかる。バナナの葉・茎をはじめ葉や野菜・果実の皮の類を飼料としてブタに与える際には、刃物を使い細かく刻まれる(写真7)。また火を使い調理して与えられる例もみられ、トウモロコシについては、石臼で粗い粒に挽き、大鍋で茹でたものが与えられる。

3] 管理技術：去勢技術と交配技術

調査村では、オスブタの場合は通常生まれて約1ヶ月目に去勢(モン語：Sam [シャー])が行なわれる。またメスブタは1年程度飼育すると交配(モン語：Tshov [チョー])が可能になる。交配が未だ不可能な1才未満のメスブタはガオブアと呼ばれ、交配が可能となるとマオブアと呼ばれるようになる。村において交配は11月～12月にかけて行なわれることが多く、この場合翌年の3月～4月に出産する。

表3 調査村における各戸のブタ飼育数(2006年)

家番号	ブタ飼育数				総数	家番号	ブタ飼育数				総数
	種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス	
1				2	2	41	2	2	2	4	10
2		2	1	2	5	42		3	1	2	6
3			2	2	4	43			1	1	2
4				1	1	44		2	1		3
5		3	2	2	7	45					0
6			1	1	2	46				2	2
7					0	47	1	4	1		6
8		3	1	2	6	48		1	2		3
9	1	3	1		5	50		1	1	1	3
10					0	51				1	1
11		1	1	1	3	52		2	1	4	7
12				2	2	53					0
13		2	1	2	5	54		1	2	1	4
14		1	2	2	5	55			2		2
15		2	2	1	5	56		3	1		4
16					0	57		1		1	2
17	3	1	2	1	7	59					0
18				2	2	61	1		1		2
19			1	1	2	62					0
20		1			1	63		1	1	2	4
21	1	4	1	3	9	64			1	1	2
22	1	3	2	4	10	65			2	2	4
23		6	2	2	10	66		3	1	1	5
24		1	2		3	67			1	1	2
25					0	68	1	2	3	2	8
26		3		1	4	69	1	2	2	3	8
27		4	1	3	8	70	1	3	1	3	8
28					0	71	1	4	2	5	12
29					0	72					0
30-1.		4	2	3	9	73	1	3	1	2	7
30-2.	1		3	2	6	74			1	1	2
31			2	2	4	75				2	2
32					0	76			1	1	2
33					0	77			1		1
34				1	1	78		1	1		2
35					0	79			1		1
36					0	80		2	1	2	5
37			1	2	3	81	1	2	4	1	8
38			1		1						
39				1	1						
40			1	2	3						
						合計	17	87	76	96	276

出所：筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年3月)

表3は調査村における各戸の飼育頭数を示す。調査村では2006年3月に未去勢のオスブタ(モン語:Taw npua [タウンブア]、以下では種オスと記述)は17頭、去勢済みのオスブタ(モン語:Quab npua [クアンプア]、以下では去勢オスと記述)は87頭、交配可能なメスブタ(モン語:Maum npua [マオブア]、以下では成メスと記述)は76頭、交配が未だ不可能なメスブタ(モン語:Nkauj npua [ガオブア]、以下では幼メスと記述)は96頭みられた。

表4 調査村における儀礼でのブタ消費(2005年)

事例番号	家番号	儀礼 時期 (月)	ブタ消費数				他家から供給されたブタ 総数
			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス	
1	15	2		2			2
2	15	2					0
3	31	2		1	1		2
4	71	2		1	1		2
5	56	3		2			2 去勢オス1頭を700Bt(HN)
6	4	4		1			1 500Bt(18)
7	5	4				1	1
8	10	4		1		1	2
9	24	4		2			2
10	33	4		1	1		2 1400Bt(BL)
11	35	4					0
12	44	4				1	1
13	48	4		1			1 700Bt(HN)
14	50	4		1	1		2
15	61	4		1			1 1500Bt(BL)
16	63	4		1		1	2
17	68	4			1		1
18	70	4		2		1	3 2000Bt(HN)
19	9	5月1日				1	1 800Bt(5)
20	2	5月2日		1		1	2
21	6	5月6日		1		1	2 1200Bt(HN)
22	11	5		2		1	3
23	37	5			1		1 1500Bt(BL)
24	38	5					0
25	64	5		2			2 去勢オス1頭を1000Bt(HL)
26	73	5		1			1
27	3	6		2			2
28	13	6			1	1	2
29	14	6月15日				1	1
30	20	6		1			1 500Bt(HL)
31	65	7		1	1		2
32	13	8月8日					0
33	39	8月7日				1	1
34	13	8月10日					0
36	40	8月30日		1			1 1000Bt(HN)
37	22	8		1			1 無償(21)
38	36	8					0
39	41	8			1		1
40	46	8					0
41	55	8					0
42	69	8				1	1
43	72	8				1	1 無償(5)
44	78	8					0
35	30-1.	8			1	1	2
45	21	9月19日		1		1	2 無償(3)
46	42	9				1	1
47	72	10月14日					0
48	70	10月18日					0
49	11	10月22日					0
50	17	12			1		1
51	41	12		1			1
52	42	12		1			1
53	78	12				1	1
合計			0	33	11	18	62

注)他家から供給されたブタについてカッコ内は家番号および他村の名称を示している。

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年5月・6月、2005年8月~10月、2006年2月)

表3の家番号41、71および73が畑の出作り小屋付近においてブタを飼育している3戸にあたる。3戸いずれも種オスを所有し、繁殖飼育を行なっている。調査村において種オスは17頭が14戸で飼育されており、種オスを所有しない家が交配を希望するときには1週間程度の貸し出しが行なわれる。村内であれば無償であるが、他村や他の民族から種オスを借りる場合は、現金のやりとり、もしくは生まれた子ブタのうちの1頭を対価として与えることがある。

3. ブタの利用

1) 儀礼およびその他の祝いにおける消費

一般にブタの利用に関しては食における消費利用、交換財や商業財としての利用、儀礼における供儀利用といった利用方法が想定されるが、調査村においては儀礼における利用が最も盛んに行われ、次いで慶事における利用が行われていた。

表4は調査村における2005年1年間の儀礼でのブタの消費頭数を示す。53回の儀礼のうち、12回の儀礼ではブタは消費されず、41回の儀礼において62頭が消費された(注3、写真8)。オスは去勢オスが33頭消費され、種オスは消費されていない。メスは成メスが11頭、

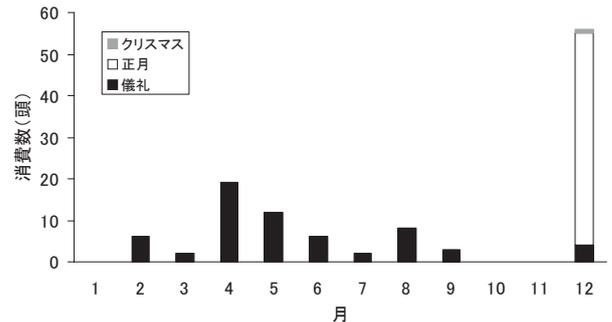


図5 月別にみたブタの消費頭数(2005年)

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。
(2006年5月・6月、2005年8月~10月、2006年2月)

表5 調査村における慶事のブタ消費(2005年)

事例 番号	慶事	家番号	ブタ消費数				他家から供給されたブタ
			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス	
1	正月	1			1		700Bt(BL)
2	正月	2					0
3	正月	3		1			1
4	正月	4					0
5	正月	5		1			1
6	正月	6					0
7	正月	7					0
8	正月	8		1			1
9	正月	10				1	600Bt(3)
10	正月	11		1			1
11	正月	12					0
12	正月	13					0
13	正月	14					0
14	正月	15					0
15	正月	16		1			5000Bt(Nan)
16	正月	18・19		1			1
17	正月	20					0
18	正月	21		1			1
19	正月	22				1	1
20	正月	23					0
21	正月	24			1		1
22	正月	25				1	800Bt(30-1)
23	正月	26		1		1	2
24	正月	27		2			2
25	正月	28					0
26	正月	29					0
27	正月	30-1.		4			4
28	正月	30-2.					0
29	正月	31					0
30	正月	32				1	600Bt(31)
31	正月	33		1			1000Bt(Nan)
32	正月	34				1	1000Bt(Nan)
33	正月	35		1			2000Bt(Nan)
34	正月	36			1		1500Bt(Nan)
35	正月	37		1			600Bt(66)
36	正月	38					0
37	正月	40		1			1
38	正月	42					0
39	正月	43		1			1
40	正月	44		1			1

事例 番号	慶事	家番号	ブタ消費数				他家から供給されたブタ
			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス	
41	正月	45					0
42	正月	46					0
43	正月	47			1		1
44	正月	48					0
45	正月	50			1		1
46	正月	51		1			1
47	正月	52		1			1
48	正月	53					0
49	正月	54					0
50	正月	56					0
51	正月	57					0
52	正月	59			1	1	2
53	正月	61		1			1
54	正月	62					0
55	正月	63		1		1	2
56	正月	64					0
57	正月	65					0
58	正月	66		1			1
59	正月	67		1			1
60	正月	68					0
61	正月	69			1		1
62	正月	70		1			1
63	正月	71				1	1
64	正月	72					0
65	正月	73		2			2
66	正月	74		1			1
67	正月	75					0
68	正月	76			1		1
69	正月	77				1	700Bt(13)
70	正月	79					0
71	正月	80		1			1
72	正月	81			1		1
73	クリスマス	81		1			1
合計			1	31	9	10	51

注1) 2005年の正月祝いは2005年12月2日から1週間行なわれ、

クリスマス祝いは2005年12月25日に行なわれた。

注2) 他家から供給されたブタについてカッコ内は家番号および他村の名称を示している。

出所:筆者の聞き取りによる全戸(79戸)調査。(2006年2月)

幼メスが18頭でのべ29頭が消費された。1回の儀礼においては最高で3頭が消費された。

表5は調査村における2005年1年間の慶事の消費を示す。正月の祝いにおいて50頭、クリスマスの祝いにおいて1頭が消費されている。オスは去勢オスが31頭消費され、種オスは消費1頭消費された。メスは成メスが9頭、幼メスが10頭でのべ19頭が消費された。正月の祝いにおいては最高で4頭が消費された。

図5は調査村における月別にみたブタの消費頭数を示す。正月の祝いにおける消費が12月に集中しているため12月は55頭を消費し、最も消費量が多い月となっている。儀礼による消費は4月と5月に多くみられ、4月に19頭、5月に12頭を消費している。また1月、10月、11月には儀礼による消費はみられない。

表6 調査村において1年間に消費されたブタの消費頭数および供給元(2005年)

消費形態	ブタ消費頭数					ブタ消費 戸数	ブタ供給元別の頭数					
	種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス	合計		自家飼育	他家飼育				
								村内		他村		
								HN村 モン・ヤオ族	BL村 タイ族	HL村 ティン族	N市 タイ族	
儀礼における供犠	0	34	28	17	62	44	42	6	8	4	2	0
正月祝い	1	30	19	10	50	42	39	5	0	1	0	5
クリスマス祝い	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年5月・6月、2005年8月~10月、2006年2月)

表7 調査村におけるブタの購入事例(2005年)

事例 番号	購入者 家番号	購入価格	ブタ頭数				購入時期	購入先		購入者による利用		
			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス		村内 家番号	村外 村名(民族名)	時期	儀礼 利用	正月 利用
1	56	700		1			3月		HN村(モン族・ヤオ族)	3月	○	
2	4	500		1			4月	18		4月	○	
3	33	1400		1	1		4月		BL村(タイ族)	4月	○	
4	48	700		1			4月		HN村(モン族・ヤオ族)	4月	○	
5	61	1500		1			4月		BL村(タイ族)	4月	○	
6	70	2000		2		1	4月		HN村(モン族・ヤオ族)	4月	○	
7	6	1200		1		1	5月		HN村(モン族・ヤオ族)	5月	○	
8	9	800				1	5月	5		5月	○	
9	37	1500			1		5月		BL村(タイ族)	5月	○	
10	64	1000		1			5月		HL村(ティン族)	5月	○	
11	20	500		1			6月		HL村(ティン族)	6月	○	
12	34	600				1	6月	46		未利用		
13	22	無償		1			8月	21		8月	○	
14	40	1000		1			8月		HN村(モン族・ヤオ族)	8月	○	
15	72	無償				1	8月	5		8月	○	
16	21	無償		1		1	9月	3		9月	○	
17	48	1500		1		2	9月	52		未利用		
18	1	1300				2	10月	59		未利用		
19	20	500		1			10月	59		未利用		
20	46	700				1	10月	13		未利用		
21	46	700				1	11月	40		未利用		
22	77	700				1	11月	13		12月		○
23	79	400				1	11月	68		未利用		
24	4	400				1	12月	2		未利用		
25	10	600				1	12月	3		12月		○
26	16	5000		1			12月		N市(タイ族)	12月		○
27	25	800				1	12月	30-1.		12月		○
28	32	600				1	12月	31		12月		○
29	33	1000		1			12月		N市(タイ族)	12月		○
30	34	1000				1	12月		N市(タイ族)	12月		○
31	35	2000		1			12月		N市(タイ族)	12月		○
32	36	1500				1	12月		N市(タイ族)	12月		○
33	37	2000		1	1	2	12月	66		未利用		
34	37	600		1			12月	66		12月		○
35	41	1400		2			12月	42		未利用		
36	75	600				1	12月	80		未利用		
37	76	600				1	12月	80		未利用		
合計		37300	0	22	4	23						

注)販売先による利用について未利用と示したところは、2006年3月の調査時の状態を示している。

出所:筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年5月・6月、2005年8月~10月、2006年2月)

2] ブタの自家消費と他家調達消費

表6は調査村において2005年1年間に消費されたブタの供給元を示す。儀礼において消費されたブタのうち42頭(26戸)は自家飼育されたものであったが、20頭(15戸、村内の他家から6頭、他村から14頭)は他家から供給されたブタであった。近隣の他村から供給された14頭のブタについて詳しくみると、モン族・ヤオ族のHN村から8頭、タイ族のBL村から4頭、ティン族のHL村から2頭がそれぞれ供給されていた。

正月の祝いに消費された50頭のうち39頭(31戸)は自家飼育されたものであったが、11頭(11戸、村内の他家から5頭、他村から6頭)は他家から供給されたブタであった。近隣の他村から調達された6頭のブタについて詳しくみると、タイ族のBL村から1頭、タイ族のナーン市から5頭がそれぞれ供給されていた。

3] ブタの流通：購入と販売

表7に調査村における2005年1年間の村人によるブタの購入事例を示した。種オス、去勢オス、成メスおよび幼メスがそれぞれ0頭、22頭、4頭および23頭購入されていた。村内での取引は22事例で30頭が、村外との取引は15事例で19頭が行なわれた。村外から購入された場合にはすぐに儀礼や祝いにおいて消費されたのに対して、村内で取引されたブタはすぐには消費されず、しばらく飼育されていた。

表8に調査村における2005年1年間の村人によるブタの販売事例を示した。種オス、去勢オス、成メスおよび幼メスがそれぞれ0頭、19頭、1頭および21頭購入されていた。村内での取引は23事例で31頭が、村外との取引は1事例で10頭が行なわれた。

村内における取引の価格は、生後3ヶ月程度のブタは400～500Bt(約1200～1500円)、生後6ヶ月程度のもは800～900Bt(約2400～2700円)となっている。いっぽう近隣タイ族のBL村では生後6ヶ月程度の村内と同様の黒毛のブタが600～700Bt(約1800～2100円)と村内の取引価格よりも安い。

4. R家とS家におけるブタ飼育と利用の事例

1] ブタの繁殖飼育における近年の変化(1996年～2006年)

表8 村におけるブタの販売事例(2005年)

事例番号	販売者 家番号	販売価格	ブタ頭数				販売時期	販売先		販売先による利用		
			種 オス	去勢 オス	成 メス	幼 メス		村内 家番号	村外 村名(民族名)	時期	儀礼 利用	正月 利用
1	18	500		1			4	4		4月	○	
2	5	800				1	5	9		5月	○	
3	46	600				1	6	34		未利用		
4	21	無償		1			8	22		8月	○	
5	5	無償				1	8	72		8月	○	
6	27	無償				1	9	6		未利用		
7	3	無償		1		1	9	21		9月	○	
8	52	1500		1		2	9	48		未利用		
9	59	1300				2	10	1		未利用		
10	59	500		1			10	20		未利用		
11	13	700				1	10	46		未利用		
12	40	700				1	11	46		未利用		
13	68	400				1	11	79		未利用		
14	13	700				1	11	77		12月		○
15	2	400				1	12	4		未利用		
16	3	600				1	12	10		12月		○
17	30-1.	800				1	12	25		12月		○
18	31	600				1	12	32		12月		○
19	66	2000		1	1	2	12	37		未利用		
20	66	600		1			12	37		12月		○
21	42	1400		2			12	41		未利用		
22	80	600				1	12	75		未利用		
23	80	600				1	12	76		未利用		
24	81	15000		10			12		N市(タイ族)	—		
合計		15300	0	19	1	21						

注) 販売先による利用について未利用と示したところは、2006年3月の調査時の状態を示している。

出所: 筆者の聞き取りおよび観察による全戸(79戸)調査。(2006年5月・6月、2005年8月～10月、2006年2月)

表9 調査村におけるブタ繁殖飼育および消費に関する事例(1996~2006年)

西暦	事例1 R家	事例2 S家
1996年		S96-F1が生まれる。去勢行なわず。
1997年		S97-M1を父親から無償でもらう。 S96-F1とS97-M1の1度目の交配を行なった。
1998年	R98-M1 生まれる。	S97-M1が3頭(オス2頭、メス1頭)を生んだ。[S98-F1、S98-F2、S98-M1] S98-F1は生後1ヶ月目に病死した。 S96-F1とS97-M1の2度目の交配を行なった。
1999年		S97-M1が4頭(オス2頭、メス2頭)を生んだ。[S99-F1、S99-F2、S99-M1、S99-M2] S99-F1は生後1ヶ月目に病死した。 S98-F2KとS98-M1を無償で消費した。
2000年	R98-M1に1度目の交配を行なった。 7月、R98-M1が1頭(メス1頭)を生んだ。[R00-M1] R00-M1は生後3ヶ月目に病死した。	S96-F1とS97-M1の3度目の交配を行なった。 S99-F2K、S99-M1およびS99-M2を無償で消費した。 9月、S97-M1が6頭(オス3頭、メス3頭)を生んだ。[S00-F1、S00-F2、S00-F3、S00-M1、S00-M2、S00-M3] 11月、S00-F1Kを畑仕事を手伝ったムラブリに与えた。 11月、S00-M1を父親の家に無償で提供した。 12月、5年間飼育したS96-F1を正月の祝いに消費した。
2001年	R98-M1に2度目の交配を行なった。 9月、R98-M1が2頭(メス2頭)を生んだ。[R01-M1とR01-M2] R01-M1は生後2ヶ月目に病死した。	2月、4年間飼育したS97-M1をHN村人に4000Btで販売した。 2月、S00-F2K、S00-M2およびS00-M3を1500BtでHN村人に販売した。 3月、HN村において2頭(去勢オス1頭、メス1頭)を1400Btで購入し、2001年4月の儀礼で消費した。 4月、儀礼を行なったがウチは消費していない。
2002年	1月、R01-M2は畑に連れて行った際に失踪した。 R98-M1に3度目の交配を行なった。 9月、R98-M1が4頭(オス2頭、メス2頭)を生んだ。[R02-F1、R02-F2、R02-M1、R02-M2] R02-F1とR02-F2は生後2ヶ月目に病死した。	3月、去勢せず飼育したS00-F3を儀礼において消費した。
2003年	4月、R02-M1を無償で消費した。 R98-M1に4度目の交配を行なった。	
2004年	2月、R98-M1が7頭(オス4頭、メス3頭)を生んだ。[R04-F1、R04-F2、R04-F3、R04-F4、R04-M1、R04-M2、R04-M3] R04-F1、R04-F2、R04-M1、R04-M2が生後2ヶ月目に病死した。 5月、R04-M3を儀礼で消費した。	2月、BP村において2頭(去勢オス1頭、メス1頭)を1200Btで購入し、2004年3月の儀礼で消費した。 12月、2000年11月に父親に無償提供したメスのお返しとして生後3ヶ月目のメスを1頭無償でもらった。[S04-M
2005年	R98-M1に5度目の交配を行なった。 6月、R04-F3KとR04-F4Kを無償で消費した。 6月、R98-M1が12頭(オス5頭、メス7頭)を生んだ。[R05-F1、R05-F2、R05-F3、R05-F4、R05-F5、R05-M1、R05-M2、R05-M3、R05-M4、R05-M5、R05-M6、R05-M7] R05-F1とR05-M1が生後1ヶ月目に病死した。 R05-F2、R05-F3、R05-M2およびR05-M3が生後2ヶ月目に病死した。 9月、R05-F4KとR05-M4を父親の家に無償提供した。 12月、R05-F5Kを正月祝いに消費した。 12月、R05-M5を村内の他家に600Btで販売した。	5月、HN村において2頭(去勢オス1頭、メス1頭)を1200Btで購入し、2005年5月の儀礼で消費した。
2006年	4月、R02-M2は飼育を継続している。 4月、R05-M6とR05-M7は飼育を継続している。	1月、生後3ヶ月目のメスを父親から1頭無償でもらった。[S05-M1] 4月、BL村において2頭(去勢オス1頭、メス1頭)を1200Btで購入し、PP村において1頭(去勢オス1頭)を700Btで購入し、2006年4月の儀礼で消費した。 4月、[S04-M1]は飼育を継続している。 4月、[S05-M1]は飼育を継続している。

注)表中のブタの表記について、Fはオスブタ、Mはメスブタを示している。例えばR家において1998年に生まれた1頭目のメスブタはR98-M1と示している。

出所: 出所:筆者の聞き取りおよび観察による調査。(2006年4月)

表9に調査村におけるブタの繁殖飼育と利用に関して2つの家の事例を示した。[事例1]としてブタの繁殖飼育と利用に変化のないR家(注4)の事例を、また[事例2]としてブタの繁殖飼育と利用に変化のあるS家(注5)の事例を示した。以上の2つの事例からは以下のことがわかる。

[事例1]のR家においては1頭の成メスを7年間繁殖飼育に用い、種オスは常に他家から借りて5度交配を行っている。いっぽう[事例2]のS家においては種オスを所有し繁殖飼育を行っていたが、2000年12月に5年間飼育した種オスを正月の祝いに消費し、翌2001年2月に4年間飼育した成メスを他村民に販売したあとは、繁殖飼育を行わなくなり、儀礼利用時に他家から購入し消費するようになっている(注6)。

2) ブタの出産頭数と飼育途上の病死率

図6はR家の飼育ブタ家系図およびその利用詳細を表す。また図7はS家の飼育ブタ家系図およびその利用詳細を表す。R家のブタの出産頭数は、2000年に1頭、2001年に2頭、2002年に4頭、2004年に7頭、2005年に12頭と年を追って数が増加している。またS家のブタの出産頭数も、1998年に3頭、1999年に4頭、2000年に6頭と年を追って数が増加している。

次に、R家のブタ飼育途上の病死率についてみると2000年生まれは1頭中1頭で100.0%、2001年生まれは2頭中1頭で50.0%、2002年生まれは4頭中2頭で50%、2004年生まれは7頭中4頭で57.1%、2005年生まれは12頭中6頭で50.0%、と常に50%を超えている。S家のブタ飼育途上の病死率についてみると1998年生まれは3頭中1頭で33.3%、1999年生まれは4頭中1頭で25.0%、2000年生まれは6頭中0頭で0%となっている。S家のブタ飼育途上の病死率は常に50%未満であり、R家と比較すると低い値となっている。

5. まとめと考察

1) タイ北部のモン族におけるブタ飼育の変化

(1) 飼育数の変化

タイ北部のモン族のブタ飼育数に関する先行研究をみると、チェンマイ県においてGeddes[1976:195]が1966年に1戸あたり0頭から30頭の幅で平均7.0頭を飼育し(注7)、Tapp[1989:58]が1981年に1戸あたり3頭から18頭の幅で平均8.9頭を飼育していると報告している(注8)。またタイ北部における他の民族のブタ飼育数に関して先行研究をみると、増野[2005:158]が2004年にパヤオ県のヤオ族の村において1戸あたり0頭から16頭の幅で平均5.8頭を飼育していると報告している(注9)。

調査村における1戸あたり平均3.5頭を飼育しているという結果は、タイ北部のモン族に関してみると、1966年に7.0頭、1981年に8.9頭、2005年に3.5頭となり、近年減少していると解釈できる。またタイ北部において他の民族と比較すると、2004年にヤオ族で5.8頭、2005年にモン族で3.5頭と、モン族はヤオ族と比較して1戸あたりの飼育数が少ないと解釈できる。

(2) 生産の変化

モン族のブタ生産については、飼育技術について舎飼いの割合と飼料が変化している可能性がある。舎飼い割合の増加については、1960年代に調査を行なったGeddes[1976:196]が多くのブタが舎飼されていないことを指摘しているのに対して、本研究の調査では一般に舎飼が行なわれていることから示唆される。飼料の変化については、Geddes[1976:196]がトウモロコシ(当時のトウモロコシは自給用に限られ、換金用のハイブリッド種ではない)を飼料として与えていることを指摘しているが、本研究の調査では近年の農耕の変化により作られるようになった換金用のトウモロコシやキャベツもブタの飼料として与えられていることから示唆される。

また繁殖飼育についても変化している可能性がある。表9に示したS家の事例では2000年を境に繁殖飼育を行わなくなっている。この変化の背景としてはS家の労働力は実質両親2人であり、近年子供の教育費を稼ぐために大規模に換金用のトウモロコシを作るようになった結果、トウモロコシ作に費やされる時間と労力が増加したことが指摘できる。いっぽうR家の労働力は実質父親1人であるが、2005年のトウモロコシ作はS家の6分の1程度の規模でありS家と比較すれば余裕がある。またR家は牛を利用してブタ飼料の運搬を行なう

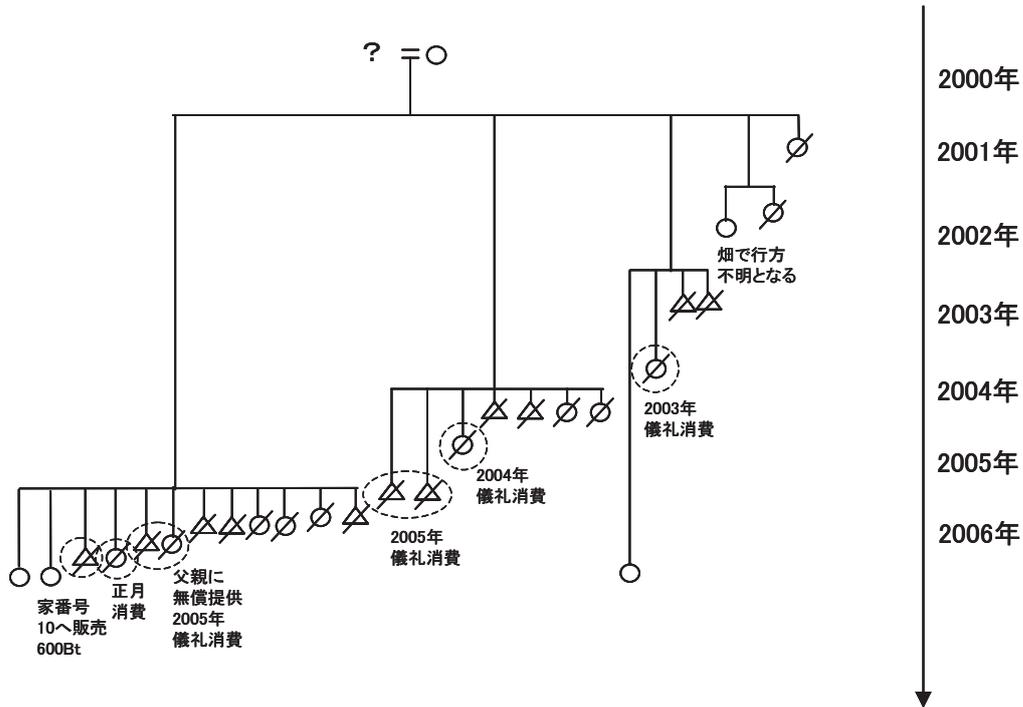


図6 R家の飼育ブタ家系図およびその利用詳細

出所:筆者の聞き取りおよび観察による(2006年4月)

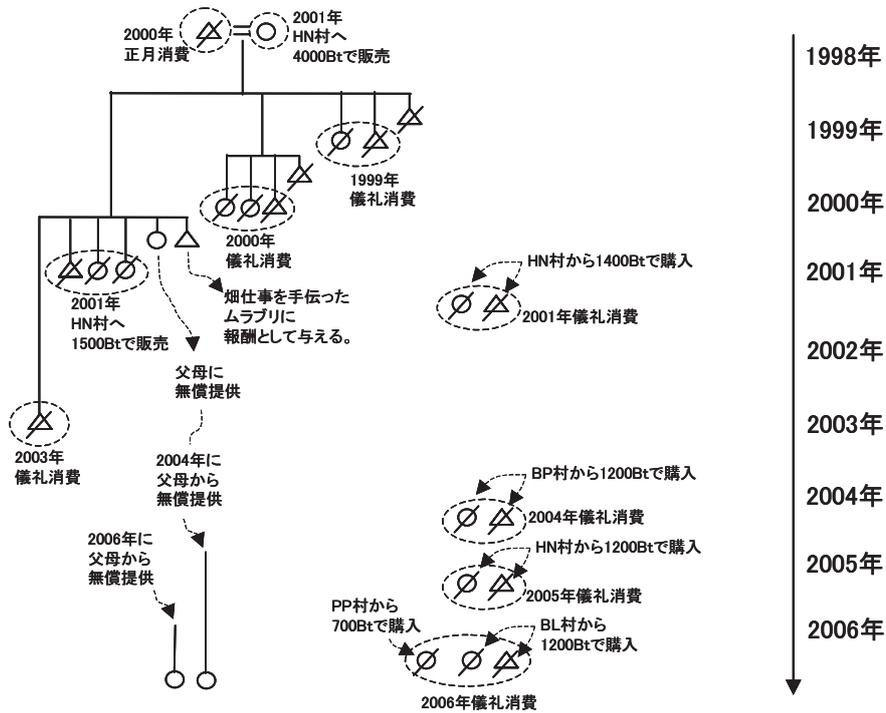


図7 S家の飼育ブタ家系図およびその利用詳細

出所:筆者の聞き取りおよび観察による(2006年4月)

ことで、ブタ飼育に費やす労力を軽減し2006年まで繁殖飼育が続けられていると考えられる。このようにモン族のブタ生産は、生業の中心である農耕の変化の影響を受けて、飼料や繁殖飼育の状況が変化しつつある可能性がある。

2] タイ北部のモン族におけるブタの生産と利用の循環サイクル

調査村においては、2005年1年間に、31頭が村内で取引され、また他村から19頭が購入され、他村へ10頭が販売された。そして2005年1年間に113頭を消費（儀礼に62頭、正月に50頭、クリスマスに1頭）している。2006年3月の全飼育頭数は276頭を示しており、以上のことからおよそ3年程度で村内のブタは消費され循環していることが推定される。ただR家において成メスが8年間飼育され、S家において種オスが5年間飼育されていたように、繁殖に用いられるブタについては3年以上飼育されている。

3] タイ北部のモン族におけるブタ飼育の位置づけ

調査村においてブタ飼育が続けられている理由としては、儀礼や慶事での需要があること、緊急換金財であることの2つが主なものとしてあげられる。儀礼や慶事におけるブタの需要は今後も続くと考えられるが、村におけるブタの繁殖飼育が今後も継続してゆくかどうかはS家やR家の事例から明らかなように、各戸の労働力や必要な教育費の事情と、各戸の現金獲得の方針によるところが大きいといえよう。このように現在のタイ北部のモン族におけるブタ飼育は、多くの村人が生産と利用に関わりをもち、生業として重要であるが、近年の農耕の変化を受けて、自家での繁殖飼育や飼育技術という生産の面において変化してきている可能性がある。

注

- 1) なぜ集落外においてブタを飼育するのかについて村人は「飼料として与えるバナナの葉・茎が近くにあるから畑近くのほうが楽だ。村の中にブタを飼う広い場所がない。」といった証言をしている。
- 2) 黒澤[2005:71-72]によると、中国北方系在来ブタと東南および南アジアにおける小耳種系ブタは、それぞれ別地域のイノシシの地理的亜種が多能的に家畜化され、後に人類の移動によって相互に交雑されている。
- 3) 調査村においては家内安全を祈る儀礼（モン語：ウアニン）が各戸において年に1回を目処に行なわれ、また病気治療の儀礼も適宜行われている。この2つの儀礼ではブタとニワトリの供犠による消費が行なわれている。
- 4) R家の2006年の家族構成は、両親が離婚して母親が不在のため、父（45）、息子1（15）、娘1（14）の3人家族となっている（カッコ内は年齢）。2005年の場合、R家においては父親1人でトウモロコシ畑0.48haと陸稲0.56haの農作業を行っている。R家は3頭の牛を所有しており、このうち2頭の放牧は弟にまかせ1頭を畑へ連れて行き、農作業中は畑の近くに放牧している。
- 5) S家の2006年の家族構成は、父（41）、母（43）、息子1（22）、息子2（20）、息子3（18）、娘1（15）、息子4（13）、娘2（11）、娘3（10）、息子5（7）の9人家族となっている（カッコ内は年齢）。現在S家は、父、母、娘3、息子5の4人で生活をしており、1人の息子はバンコクへ出稼ぎに、3人の息子と2人の娘は県内もしくは、バンコク周辺の学校で寄宿生活を行なっている。子供らは3月～5月と9月～10月の学校が休みの時期には、村にもどりS家の労働力となっているが、2005年の場合、子供が学校に行っている時期は、両親の2人で3.20haのトウモロコシ畑と0.32haの水田の農作業を行なっている。
- 6) なぜ2000年以降、自家において繁殖飼育を行なわなくなったのかについて、S家の人は「5年ほど前から子供が高校に行く年齢になり、現金がたくさん必要となった。トウモロコシの畑を大きく作るようになり、畑仕事が忙しくなった。大きく畑をつくるには植え付け時と収穫時に、たくさん他家の人の手伝いが必要だ。その為には他家の手伝いをたくさんする必要がある。たくさんのブタを飼育するには毎日たくさんのエサを与えないといけない。エサをとりにゆくのは疲れるし時間がない。トウモロコシを売ってブタを買ったほうがいい。」と証言する。
- 7) Geddes[1976:133]はチェンマイ県において人口570人（71戸）の村を1966年に調査している。59戸について家畜調査を行い、ブタ412頭、ニワトリ1057羽、馬82頭、犬93頭、ヤギ50頭、牛46頭がいると報告している[Geddes 1976:195]。
- 8) Tapp[1989:58]はチェンマイ県において人口207人（27戸）の村を1981年に調査している。24戸について家畜調査を行い、ブタ214頭、ニワトリ694羽、馬84頭、牛177頭がいると報告している。

9) 増野 [2005:158] はパヤオ県において人口 128 人 (20 戸) の村を 2004 年に調査している。20 戸について家畜調査を行い、ブタ 116 頭、ニワトリ 200 羽、牛 104 頭がいると報告している。

引用文献

- 黒澤弥悦 2005 「アジアの豚の起源と系譜 特に小耳種系豚について」『在来家畜研究会報告』22:65-84.
- 増野高司 2005 「焼畑から常畑へ」池谷和信 編『熱帯アジアの森の民』人文書院 pp.149-178.
- Cooper, R. 1984. Resource Scarcity and the Hmong Response. Singapore Univ. Press.
- Geddes, W. R. 1976. Migrants of the Mountains: The Cultural Ecology of The Blue Miao (Hmong Njua) of Thailand. Oxford Univ. Press.
- Tapp, N. 1989. Sovereignty and Rebellion: The White Hmong of northern Thailand. Oxford Univ. Press.
- Tungittiplakorn, W. 1998. Highland cash crop development and biodiversity conservation: The Hmong in northern Thailand. Ph.D Thesis, Univ. of Victoria.

Abstract

This study was done for the purpose of making clear pig breeding of Hmong (Miao) people in north Thailand, from the aspect that the number of breeding pigs, breeding skill and details of production and utilization. Results of this study are following 3 points. The total 276 pigs were breeding in the village in March 2006. And it was made cleared that the number of pigs in each household and details of pig s feed. Villagers consume the total 113 pigs in ritual ceremonies and celebrations through the year 2005. And they were bought the total 19 pigs from other villages and were sold the total 10 pigs to other villages. These results indicate that they consume the pigs in the 3 years cycle approximately. There is a villager who stopped breeding the pigs from the year 2000 and changed to buy pigs for consumption. Then, this kind of recent pig breeding change in this study might be related to the change of the main subsistence that swidden agriculture.